



バンダイナムコホールディングス<7832>、「ガンダム」著作権管理などの創通をTOBで子会社化



バンダイナムコホールディングスは9日、アニメ番組の企画・制作や著作権管理を手がける創通（ジャスダック上場）に対してTOB（株式公開買い付け）を実施すると発表した。完全子会社化（現在は22.79%所有）を目指しており、買付金額は最大350億円。バンダイが展開する「機動戦士ガンダム」シリーズで創通が著作権管理を受け持つなど両社はかねて緊密な関係にある。顧客ニーズの多様化や世界規模の競争激化などエンターテインメント市場を取り巻く環境変化に的確に対応するため、子会社化に踏み切る。

創通株の買付価格は1株につき3100円。TOB公表前日の終値1865円に66.22%のプレミアムを上乗せした。創通はTOBに賛同を表明している。また、創業者で筆頭株主の那須雄治氏（所有割合29.27%）、第3位株主で同氏の資産管理会社（同19.93%）はTOBに応募する契約を結んだ。買付予定数の下限は49.2%。

買付期間は10月10日～11月25日。買い付け代理人は野村証券。決済の開始日は12月2日。

創通は1962年に東洋エージェンシーとして設立。プロ野球・読売巨人軍から専属代理店に指定され、球団グッズの企画・販売や著作権管理などを手がけた。1977年に創通エージェンシーに社名変更し、アニメ分野に事業を拡大した。2007年に現社名の創通となった。

バンダイは2000年に、「ガンダム」シリーズにおける事業連携の強化を目的に創通株式の21.7%を取得。その後、バンダイとナムコの経営統合を経て、現在も20%超を保有し、持ち分法適用関連会社としている。